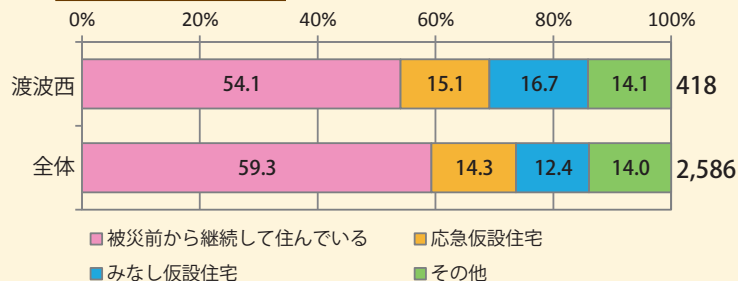


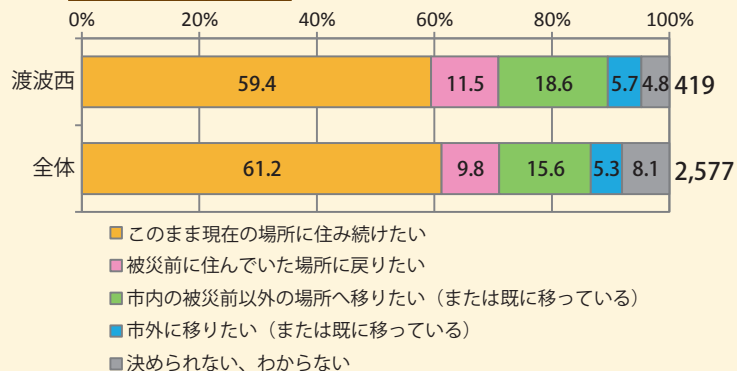
## アンケート結果

平成25年12月から平成26年1月にかけて、被災時に東部地区にお住まいの約6,000世帯の方に、アンケートを実施しました。主な設問と結果は、次のとおりです。

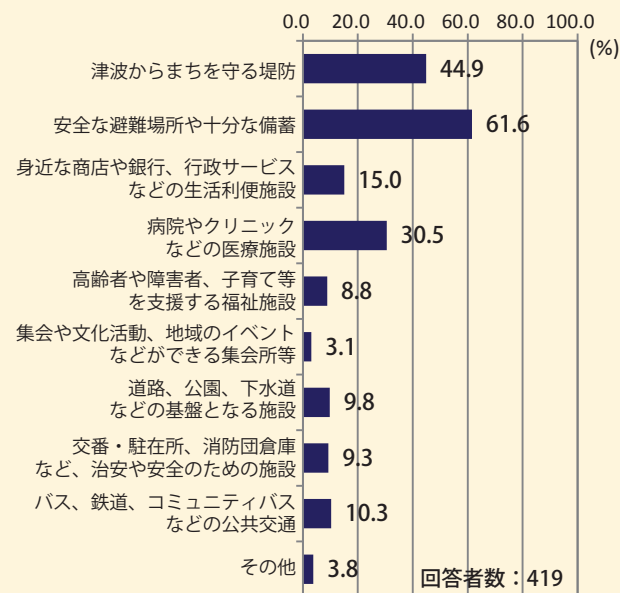
### ●現在のお住まい



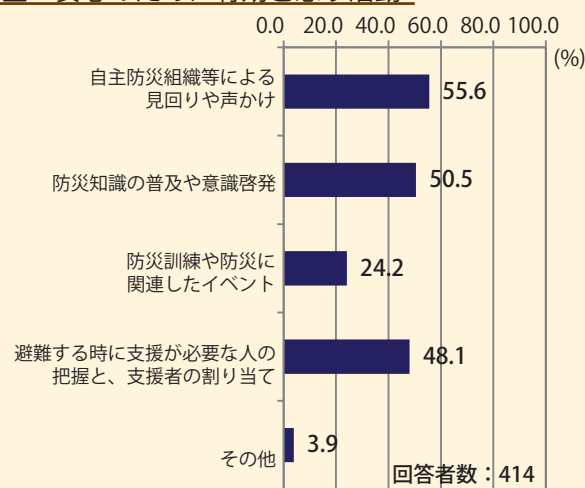
### ●今後のお住まい



### ●住み続けるために重要と考えられる施設



### ●安全・安心のために有効と思う活動



## 今後の進め方

皆様からいただいた意見について、市では新たな財政措置が必要な課題や、より積極的に解決に取り組むべき案件などを整理・調整し、市としての方針や方向性のとりまとめを行いました。

それを、湊地区の町内会長連合会、渡波地区の行政区長会にてお示した後、市が策定する震災復興基本計画実施計画へ反映させるなど、具体化させていきたいと考えています。

もっと住みやすい  
まちにするために

## お問い合わせ先

石巻市 復興政策部 地域協働課  
TEL：0225-95-1111(代表)  
FAX：0225-22-4995  
E-mail：iscviact@city.ishinomaki.lg.jp

皆さまのご意見をお待ちしています



# 東部地区復興まちづくり だより Vol.1

## 栄田・黄金浜地区

### 栄田第一・第二・東黄金浜・南黄金浜

石巻市では現在、“どうすれば安心して暮らし続けることができるのか” “どうすれば仮設住宅等にお住まいの方々が戻ってこられるのか” をテーマとした東部地区\*の復興まちづくりに、住民の皆さんとともに取り組んでいます。

その一環として、昨年の11月末から地区別に2度の意見交換会を開催しましたので、その結果をお知らせします。

※東部地区とは・・・  
旧北上川より東側の市街地のうち、津波による被害が大きく、かつ土地区画整理事業等の事業を行わない地区を指します。



平成26年8月  
石巻市 復興政策部 地域協働課



**第1回意見交換会を開催しました【平成25年12月16日(月)会場：黄金浜会館 住民出席者：34人】**

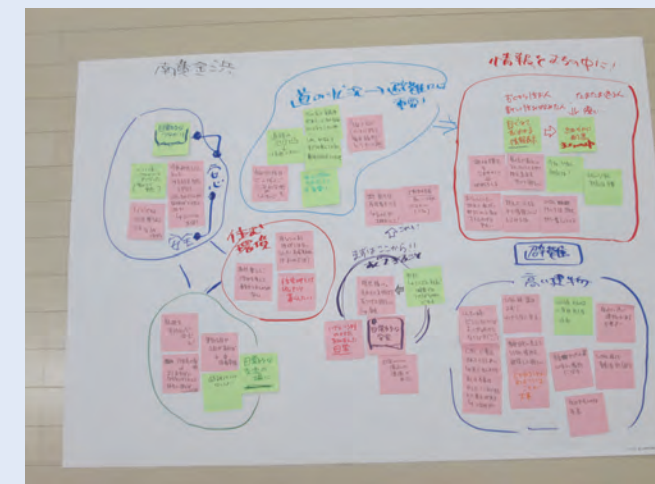
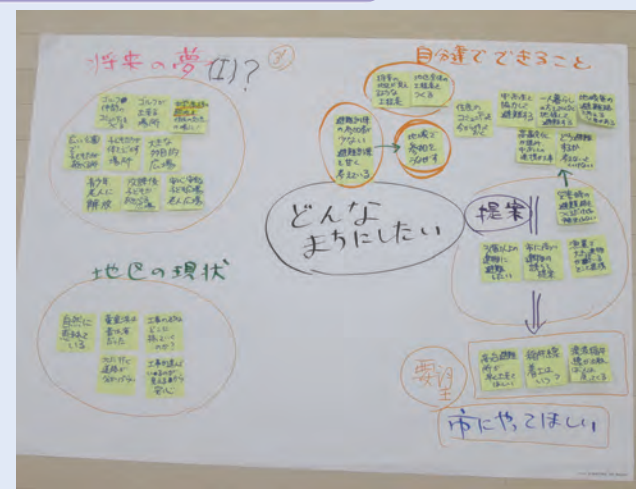
平成25年12月16日 黄金浜会館にて、渡波西地区（栄田・黄金浜地区、根岸地区）の合同意見交換会を取り行いました。

主な意見：

- ・車で牧山へ逃げる道、避難路、駐車場等を確保して、渋滞しないようにしてほしい。
- ・防災無線が聞こえづらい。
- ・夜間、街路灯が少なく道が暗い。街灯をもっと短い間隔（市の80m基準や電柱の有無に関係なく）で整備してほしい。
- ・流留真野沢田線は、避難路として非常に重要である。早く整備をしてほしい。
- ・渡波稲井線だけでは心細い。同じような南北道路を他にも作ってほしい。
- ・渡波稲井線に接続するための東西道路も整備してほしい。
- ・渡波稲井線にかかる根岸会館は現在利用頻度が高い。代替りの施設の確保、また、新たに施設を作った後に根岸会館を壊す等、計画で配慮してほしい。また、代替地について早く説明してほしい。
- ・渡波地区に新駅を作ってほしい。渡波が始発となる東北本線に乗り入れる快速電車を通してほしい。
- ・渡波中学校、女子高の跡地には道の駅や公園のような、地域の住民が交流できるような施設を作ってほしい。
- ・車で避難できない、歩いて避難する人のために近場に避難できる津波避難タワーを作ってほしい。
- ・日頃からの避難訓練、お年寄りの方や体の不自由な人も助け合って逃げられるようなコミュニティづくりの検討もしてほしい。
- ・新市街地や復興公営住宅の中に、住民が集える集会場・コミュニティ施設等を設けてほしい。また、それに伴った新たな自治会も検討してほしい。



**意見交換会の様子**



**第2回意見交換会を開催しました【平成26年2月18日(火)会場：黄金浜会館 住民出席者：21人】**

**話し合った主な意見**

**●コミュニティ●**

今のまちに愛着があるという意見が多く出ました。

住宅地としてゆったりと暮らしたい。

渡波中学校・女子高の跡地を、公園や道の駅などの交流の場にしたい。

もともとコミュニティがしっかりしている地区であり、震災後、更に強くなった。

人と人のつながりが地域の安全に重要という意見が出ました。

昔の松林を懐かしく思いながら防災緑地に植樹することで、絆や郷土愛を育む。

新しい住民や通行人にもまちの情報を伝えるため、海拔や避難方向を表示する。

(高齢)単身世帯の把握、地域ごとの避難路、若い人との連携による避難を考える。

将来を見据えたまちづくりの新たな提案もあがりました。

行政によるハード事業も含めたまちの将来が見える工程表を住民でつくる。

災害時の避難のルール作りが必要という意見が出ました。具体的な提案も多く出ました。

避難場所や備蓄について、地域での管理方法などを考えておく。

**●暮らしやすさ●**

緑地にサイクリングロードを作ってほしい。

大きな病院があるといい。

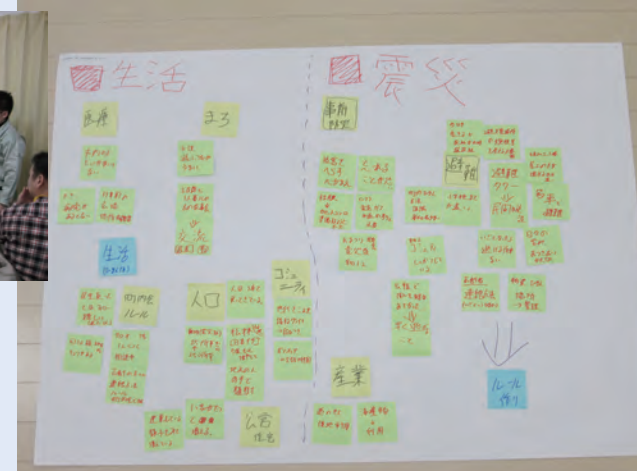
高台避難路や、渡波稲井線の整備を早くしてほしい。

**●安全・安心●**

身近なところに復興公営住宅などの高い建物ができると、安心感につながる。

停電時でも数時間点灯する街灯を整備する。

避難所である小学校まで遠いので、避難タワーを整備するか、民間施設を緊急避難所とできないか。



**第2回意見交換会に参加した感想・意見等**

- ・会議の趣旨からかけ離れ、どうしても津波の避難方法や防災の話題になってしまいます。3年たった今でも住民の皆さんにとってとても大きな体験だったことがうかがえます。年配の方たちが不安を抱えて生活している現状も知ることが出来ました。出来る範囲で協力していきたいと思えます。一気に変化することは無理ですので、日々地道に暮らしていくその先に何か良い結果があると思っています。
- ・参加者皆さんそれぞれの意見を出し合い有意義な話し合いだったと思えます。
- ・皆さんもいろいろな考えがあることをよく知れました。
- ・今後もまた参加します。このような企画を継続してほしいと思えます。
- ・初めてこのような会に参加しました。機会があったらもっと参加して、いろいろな意見・情報をききたいと思えます。
- ・題目の焦点が広すぎる割に時間が巧く使えなかった。市内ないし、公的施設でセッションの垂れ流し等状況を見られれば問題点等の洗い出しに使えるか？そもそも自主的な人たちが少ないので難しいか？個人的にはまちづくりに参加している様で興味深かった。
- ・もう少し多くの住民に集まってもらいたかった。

**●参加してみても●**

